



小林 立栄 議員

一括質問方式

一人一人に寄り添った行政運営を

市長 小さい声を聞き取り、声を上げにくいモノを見ていくことが重要

※サニタリーボックス
使用済みの生理用品等を廃棄する目的でトイレに設置されているゴミ箱

持続可能な未来に向けた取り組みを

市長 希望に向かって積極的にチャレンジしていく

問 一次産業の持続可能性を高め、未来に繋いでいくことが大切。まずは物価高騰対策の強化を。

答(市長) 飼料用牧草生産支援など6事業を実施している。また、生産コスト1割削減をめざす国の支援策について、申

請手続きの負担軽減に取り組む。

問 特にも深刻な酪農経営への緊急支援を。

答(市長) 生産者団体や関係機関と連携し、現状把握に努め必要な対策を検討する。

問 尿漏れパッドや紙パンツを使用する男性が外出する際、その処理に困っている現状がある。公共施設の男性用トイレに※サニタリーボックスの設置を。

答(市長) そのとおりであり、進めて行きたい。

問 民法上、同性カップル

の婚姻が認められていないため、大事な人と一緒に生活したいという当たり前のことが当たり前になっていない現状がある。パートナーシップ宣誓制度を導入するべき。

答(市長) 導入自治体から転入してきた方はどうなるのかとの質問は、その通り。どのような形でサポートできるかを考えていかなければならない。

問 悩みを抱えた児童生徒が、必要な時、必要な相手に相談しやすい環境を整え、解決に向けて寄り添っていく体制の充実が重要。学習用端末(タブレット)を活用した相談体制を整える必要は。

答(市長) 悩みを相談できる専用アプリは導入しているが、学習用アプリ

にメッセージをやりとりする機能がある。使い次第で、十分活用できると考えている。時間や場所にとらわれることなく、児童生徒が悩みを相談しやすい体制作りと相談チャネルの周知を行って、児童生徒のSOSサインを見逃すことなく取り組む。



食は命。食は文化。一次産業を未来へ繋いでいくことが大事

農業担い手と営農組織の育成は

市長 起業家集団化を目指しサポートする

問 認定農業者の年代別をみると、60代以上が59%を占め、基幹的農業従事者の60代以上が85%となっている。このデータについて市長はどう思われるか。

答(市長) 依然厳しい状況にある。市の農業は60代で保たれている。起業塾というものを本格的に取り組みたいと思っている。

問 集落営農組織は、3法人を含み20組織ある。営農組織も増えない、法人化も進まない、農業担い手不足の中で、高齢化によって就農ができない人の受け皿として、営農組合が重要である。農村環境の維持も含め、遠野市の未来のために、集落営農組織を推進すべきと思うが市長の考えは。

答(市長) 起業が集団化しては

しい。方法論も含めてやらないといけない。農業をする人に寄り添ってサポートする体制を取りたい。



附馬牛営農組合総会の様子

市民も実感できる指標を

市長 実感と結果が共通するよう工夫をする



わかりやすいまちづくり指標とは

問 まちづくり指標について、これだけ変化のある社会において5年間指標が変わらないというのはどうか。市民が見ても実感できるもの

のにし、身近な目標として捉え、達成すれば市民誰もが納得する値にすべきと思うが。

答(市長) 当然わかりやすい方がいい。どういう風になればより現実的なのか、実感と結果が共通するような指標にするために工夫をしていく。この辺もアドバイスをいただき、一緒にやっていくということがいいと思う。